

令和4年度 生活習慣病重症化予防連携推進会議 議事要旨

- 1 日 時 令和4年11月1日(火) 19:00～20:30
- 2 開催場所 北九州市役所3階大集会室
- 2 参加者 [構成員] 河野構成員、海津構成員、金井構成員、柳田構成員、益田構成員、柴田構成員、杉本構成員、大藏構成員、古市構成員、松丸構成員、丸子構成員、高島構成員、竹浦構成員、増田構成員、足立構成員、田中構成員
[関係団体] 健康保険協会、福岡県庁、市職員共済組合
[事務局] 保健福祉局医務監、保健福祉局健康医療部長、保健福祉局健康医療部健康推進課長ほか
- 3 議 題
 - ・北九州市の現状について
 - ・糖尿病重症化予防連携推進に関する取組の評価
 - ・CKD 予防連携システムに関する取組の評価と検討事項
- 4 議題概要

北九州市の現状について・・・資料2
議題資料について、事務局より説明。
<主な内容>

 - (1) 国保保健事業について
 - ・令和元年度の一人あたり医療費(年齢調整後)は政令市では国保が2番目、後期高齢者が3番目と高く、今後も医療費適正化の取組が必要。
 - ・生活習慣病が重症化した疾患の入院医療費は減少傾向にあり、特定健診関連の個別保健指導を中心とした保健事業の効果が出ていると考えられる。
 - ・特定健診について、新型コロナウイルス感染症の影響による健診受診控えもあり、令和元年度、令和2年度の受診率は下がっている。また本市国保は全国と比べてHbA1c 有所見者、メタボリックシンドローム該当者の割合が高く、引き続き課題解決に向かって取り組むことが必要。
 - ・入院医療費だけでなく外来医療費についても見ていく必要がある。
 - (2) 高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施について
 - ・本市は高齢化率が高く、後期高齢者の割合も高い状況であることから、健康寿命の延伸と社会保障費の安定が必要となっている。医療や介護への影響がある脳血管疾患の課題があり、まず脳血管疾患最大のリスクである高血圧を解決していくために様々な取組を行っている。

(3) 健康づくり推進プラン及び食育推進計画について

- ・「健康づくり推進プラン」について。次期プラン策定の基礎資料とするため、令和4年10月に実態調査を行った。健康づくりスローガンにもあるように、「健康寿命2歳延伸」を掲げ様々な取組みを行った結果、H28年度からR元年度の健康寿命の男性の伸びは、0.01歳、女性の伸びは1.62歳となっており、2歳延伸までは難しくとも一定の伸びがあると期待している。現行プランの評価結果をふまえ、次年度に専門家や市民の方々の意見を伺いながら、次期健康づくり推進プランを策定していく。
- ・「第三次北九州市食育推進計画」について。今年度健康づくり及び食育に関する実態調査を行った。その結果をもとに評価を行い、食育に関する識見や幅広い識見をもつ方々から意見をいただきながら検討を進め、本市の実情に合わせて策定する予定。

糖尿病重症化予防連携推進に関する取組の評価と検討事項 . . . 資料3

<主な内容・結果>

(3) 各団体の取組状況について

- ・コロナ禍ではあるが、各団体ともイベントや啓発活動など、できる範囲で再開し取り組んでいる。

(4) 糖尿病重症化予防アンケート結果について

- ・平成30年度に比べ、「糖尿病連携手帳」の認知度や活用の割合が増え、浸透してきていることが分かった。糖尿病と歯周病の関連は知っている割合が増えたものの、歯科受診の勧奨については前回と差が見られなかった。眼科・歯科から逆に紹介されているかどうかについては、前回に比べ大幅に増加しており、多職種連携が強化されていると考えられる。

CKD 予防連携システムに関する取組の評価と検討事項 . . . 資料4

<主な内容・結果>

(2) 取組の評価

- ・運用状況については、様式の利用は年々減少傾向にあるが、一次医療機関から二次医療機関への紹介連絡票の数より、二次医療機関受診者連絡票の数が多いことから、二次医療機関へ紹介している数は連絡票の数以上にあっていると推測できる。
- ・CKD 予防連携システムを開始して10年経つため、腎専門医に1回は受診したという方が増えたと考えられる。

(3) CKD 重症度シールの運用状況について

- ・ヒートマップの赤に該当する方が多い傾向にある。シールの普及活用においても医療機関と薬局双方向での連携が必要。

(4) CKD 予防連携システム患者さん用パンフレットの見直しについて

- ・透析の大変さをもう少しアピールしてよいのではないか。糖尿病と歯周病の関連について啓発が必要。

■次回開催について

令和5年10月～12月頃を予定。